

平成 26 年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

平成 27 年 8 月

鳩山町教育委員会

## 目 次

- 1 はじめに
- 2 点検評価の対象及び方法
- 3 鳩山町教育振興基本計画の策定
- 4 鳩山町いじめ防止基本方針の策定
- 5 鳩山町教育行政の重点施策
- 6 重点施策に基づき取り組んだ主な事業と評価
  - (1) 確かな学力と自立する力の育成
  - (2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
  - (3) 質の高い教育環境の整備
  - (4) 家庭・地域社会と連携した教育の推進
  - (5) 生涯学習と生涯スポーツの振興
  - (6) 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進
- 7 おわりに

## 1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなりました。

この報告書は、鳩山町教育委員会が同法の規定に基づき、毎年度教育行政の基本方針として定めている鳩山町教育行政重点施策に関し、平成 26 年度に重点的に取り組んだ事業について、点検及び評価を実施した結果をとりまとめたものです。

## 2 点検評価の対象及び方法

鳩山町では、毎年度「教育行政重点施策及び努力点」を定めております。この重点施策は、教育委員会がその年度に重点的に取り組むべき施策として定めており、これに基づき、教育委員会が自ら点検評価を実施するものです。

また、法第 26 条第 2 項の規定に基づく、有識者の活用については、学識経験者 3 名から意見をいただきました。

氏名	経歴等
中島可南子	現 学校給食センター運営委員
小鷹 直樹	元 体育協会副理事長
高見みな子	現 主任児童委員

## 3 鳩山町教育振興基本計画の策定

平成 18 年 12 月に教育基本法が改正され、新しい時代の教育の基本理念が示され、同法の中で、「地方公共団体は、その地域における教育の振興を図るため、その実情に応じた教育に関する施策を策定し、実施しなければならない」とし、また、「国や埼玉県が定める計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努力しなければならない」ことが新たに規定されました。鳩山町教育委員会では、平成 23 年度に公募委員を含む「鳩山町教育振興基本計画検討委員会」で検討いただきながら、今後の 10 年間を見据えた鳩山町の教育の姿「基本方針」を示すとともに、今後 5 年間に実施すべき教育施策や事業を具体的に示すものとして「鳩山町教育振興基本計画」を策定しました。

## 4 鳩山町いじめ防止基本方針の策定

平成 25 年 9 月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、同年 10 月に国において「いじめ防止等のための基本的な方針」が策定されました。同法第 12 条において地方いじめ防止基本方針の策定が規定され、平成 26 年 1 月には「埼玉県いじめ防止等のための基本的な方針」が策定されました。

鳩山町でも、町内の小中学校におけるいじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため「鳩山町いじめ防止基本方針」を策定しました。

策定に当たっては、鳩山町いじめ防止基本方針検討委員会設置要綱を定め、教育関係者や識見を有する者、公募による者から構成される 8 名の委員により「鳩山町いじめ防止基本方針検討委員会」を設置し、国や埼玉県の基本方針を参酌し、鳩山町の実情を踏まえながら、4 回の会議を開催し、原案をとりまとめ、その後パブリックコメントを実施し、平成 27 年 3 月に「鳩山町いじめ防止基本方針」を策定しました。

なお、町内の各小中学校では、同法第 13 条に規定される「学校いじめ問題基本方針」は既に策定されています。

## 5 鳩山町教育行政の重点施策

### 【基本理念】

『意欲を育み 心をつなぐ』

鳩山の子どもの実態、鳩山町教育振興基本計画を踏まえ、未来に希望を持ち、心豊かに、力強く生きていく鳩山の子を育てるために「意欲を育み 心をつなぐ」を基本理念とする。

#### 1 意欲を育むために

愛情（人間愛）を基本に、学び合い・触れ合い・認め合い・励まし合い、心安らぐ居場所を作り、家庭・学校・地域で、意欲を育む。

#### 2 心をつなぐために

一緒に行動（協働）することを基本に、共に信じ、喜び、絆を深めながら愛情を持って見守ることで、心をつなぐ。

#### 3 意欲と心をつなぐために

言葉の力で「意欲を育み、心をつなぐ」前向きな声掛けをする。特に、「おはよう、ありがとう、ごめんなさい、どうぞ、どういたしまして」の言葉を大切に指導する。

### 【重点施策】

I 確かな学力と自立する力の育成

II 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

- Ⅲ 質の高い教育環境の整備
- Ⅳ 家庭・地域社会と連携した教育の推進
- Ⅴ 生涯学習と生涯スポーツの振興
- Ⅵ 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進

**【努力点】**

- (1) 確かな学力と自立する力の育成
  - ① 創意を生かした特色ある幼稚園・学校づくりの推進
  - ② 学力向上・指導方法の改善など「わかる授業」の研究
  - ③ 少人数学習・少人数学級編制の推進
  - ④ 特別支援教育の推進
  - ⑤ キャリア教育の推進
  
- (2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
  - ① 豊かな心を育む教育の推進
  - ② 発達段階に応じた健康教育の推進
  - ③ いじめ・不登校問題等学校教育相談体制の充実
  - ④ 安心・安全な食育活動の推進
  
- (3) 質の高い教育環境の整備
  - ① 学校施設の改修・バリアフリー化の実施
  - ② ICT機器を活用した教育環境の整備
  - ③ 新たな給食センターの整備
  
- (4) 家庭・地域社会と連携した教育の推進
  - ① 家庭教育支援体制の充実
  - ② 学校応援団活動の推進
  - ③ PTA等の各種諸団体との連携強化
  
- (5) 生涯学習と生涯スポーツの振興
  - ① 多様な生涯学習の機会の提供と支援
  - ② 文化芸術活動の振興
  - ③ スポーツの振興
  - ④ 地域の人材・専門家などの積極的な活用
  - ⑤ 文化施設・スポーツ施設等の整備・維持管理
  - ⑥ 図書館サービス事業の推進

(6) 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進

- ① 南比企窯跡群の国指定文化財への指定推進
- ② 各種文化財の調査研究
- ③ 無形文化財の保存・継承
- ④ 多世代活動交流センター展示室の活用

## 6 重点施策に基づき取り組んだ主な事業と評価

### (1) 確かな学力と自立する力の育成

#### ① 創意を生かした特色ある幼稚園・学校づくりの推進

公立幼稚園、各小中学校ではそれぞれに研究課題を設定して、研究を行い、特色ある教育活動を展開しました。教育委員会は適宜サポートする体制で関わっています。

平成 26 年度の公立幼稚園・各小中学校の研究課題は以下のとおりです。

鳩山幼稚園 「生き生きとかがやいている子」

…具体的な幼児の姿から保育内容について考える…

亀井小学校 「学び合いを通し、相互に学力を向上する児童の育成」

…算数科の学習を通して…

今宿小学校 「言語活動の充実を目指した学習展開の工夫」

…国語科と外国語活動の指導を通して…

鳩山小学校 「豊かな心を育てる言語活動の推進」

…コミュニケーション能力を高める「聞き取る力」「伝え合う力」の育成…

鳩山中学校 「自ら学び、考え、発表する生徒の育成をめざして」

…授業（本時）のねらいを達成するための豊かな言語活動のあり方…

#### ② 学力向上・指導方法の改善など「わかる授業」の研究

「確かな学力と自立する力の育成、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」を幼稚園、各小中学校の重点目標として位置づけ、自校（園）の子どもたちの実態把握から課題設定を行い、取り組みました。特に、基礎的・基本的内容に係わる部分では、各学校の年間指導計画上に明示して教職員が重点課題として学力向上に取り組みました。

教育委員会では、町費任用の学習支援講師として幼稚園に 1 名、小学校に 3 名を配置するとともに、小学校に特別支援教育支援員 5 名、英語指導助手 2 名を配置するなど人的措置を講じてバックアップを行っています。

また、小・中学校ではすべての学年において「35 人学級」を実現するた

めに町費による少人数学級支援講師5名を配置し、きめ細やかな学習・生活指導ができる環境づくりを進めました。

毎時間の授業を充実させ、児童生徒に確かな学力をつけることが教師の第一義的な役割であることを鑑み、教師の指導力向上を目指して教育指導業務を充実させました。例として、一昨年度からの新規事業として、若手教員研修会、小学校外国語活動研修会をはじめとする研修を充実させたことや、転入職員の授業参観、各校授業研究会での指導、教育委員会訪問など、各校の訪問指導を充実させました。その中で、一時間の授業の「目標・めあて」を明確にし、「児童生徒のことばでまとめさせる」という児童生徒が成就感を味わえる「わかる授業」の基本形を示し、そこに至るための指導方法の工夫や改善を促す指導を行なってきました。

鳩山町学力向上推進委員会では、各小・中学校の課題を明確にし、課題解決のための方策を検討しました。推進委員会で作成した、基礎・基本の充実をはかるドリル学習のソフトを、町内全校で引き続き実施することで、「計算」について成果を上げることができました。

### ③少人数学習・少人数学級編制の推進

平成26年度、幼稚園並びに小学校に町費任用の学習支援講師4名、英語指導助手2名を配置するなど、人的措置を講じてバックアップを行いました。

また、小・中学校ではすべての学年において「35人学級」を実現するために町費による少人数学級支援講師を小学校に1名、中学校に4名を配置し、きめ細やかな学習・生活指導ができる環境づくりを進めました。この措置によって、一人ひとりの生徒に目が届きやすくなり、いじめや非行などの問題行動の抑制に成果を上げるとともに、落ち着いて学習に取り組める環境が整うことで、全国学力・学習状況調査でも上位の成績を出しています。

### ④特別支援教育の推進

小学校に特別支援教育支援員5名を配置して特別に支援を必要とする児童へのきめ細やかな指導支援を行っています。また、特別支援学級の新担任となった教員には研修に参加させ、指導力の向上にも努めました。また、県立毛呂山特別支援学校の特別支援学級コーディネーターとの連携を密に行うことで、より専門的な見地からの指導支援も行うことができました。これらの措置により、軽度発達障害の児童へのより細やかな個別の支援が充実し、教育効果を上げています。

### ⑤キャリア教育の推進

小学校段階、中学校の学年ごとのキャリア発達の段階に合わせ、計画的で

系統的にキャリア教育を進めています。中学校1年生では地域の協力を得ながら3日間の職場体験学習を実施し、事前学習、事後学習を含め、ていねいな指導が行われています。生徒は、これらの体験の中で、達成感や満足感、自信や自己有用感を獲得し、働くことや学ぶことへの意欲につながる有意義な学習が行われました。

## 【評価】

### ①創意を生かした特色ある幼稚園・学校づくりの推進

公立幼稚園、各小中学校では各園各校の幼児、児童、生徒や地域の実態を的確に把握し、課題を設定して研究に取り組みました。いずれの園や学校も創意を生かした特色ある教育活動を展開することで特色ある園づくり、学校づくりが行われました。

### ②学力向上・指導方法の改善など「わかる授業」の研究

若手教員研修会の継続実施、小学校外国語活動研修会をはじめとする研修を充実させたことや、転入職員の授業参観、各校授業研究会での指導、教育委員会訪問など、各校の訪問指導を充実させました。その中で、一時間の授業の「目標・めあて」を明確にし、「児童生徒のことばでまとめさせる」という児童生徒が成就感を味わえる「わかる授業」の基本形を示し、そこに至るための指導方法の工夫や改善を促す指導を行ってきました。その結果、教師の指導力の向上はもちろん、「授業で勝負できる教師」としてのプロ意識も高めることができました。

### ③少人数学習・少人数学級編製の推進

この措置によって、一人ひとりの生徒に目が届きやすくなり、いじめや非行などの問題行動の抑制に大きな成果を上げています。そして、落ち着いた学校生活の中で集中して学習に取り組める環境が整うことにより、県の学習状況調査でも上位の成果を出しています。

### ④特別支援教育の推進

各小学校に配置した特別支援教育支援員の人的措置、特別支援学級の新担任となった教員の研修への参加、県立毛呂山特別支援学校の特別支援学級コーディネーターを通じた専門機関との連携により、軽度発達障害の児童へのより細やかな個別の支援が充実し、教育効果を上げています。

また、年間4回の就学支援委員会を開催し、園児、児童・生徒一人ひとりに合った就学先をアドバイスできる体制のもと、就学について支援を行いました。



## ⑤キャリア教育の推進

小学校、中学校の学年ごとのキャリア発達の段階に合わせ、計画的で系統的にキャリア教育を進めることで将来の自立へ向けた、健全な職業観、勤労観を醸成する指導が行われました。進路学習はもとより、道徳などでも人間としての生き方についての自覚を深める学習が計画的になされています。

## (2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

### ①豊かな心を育む教育の推進

各学校で、日々の学校の教育活動全体、豊かな体験活動をとおして道徳的な心情、判断力、実践意欲や態度を育てています。道徳・学活の時間の確保と充実を図り、各校の創意と工夫を生かした豊かな体験活動を展開することで、児童生徒に体験の中で実践的・経験的に道徳的心情の醸成を図ってきました。

### ②発達段階に応じた健康教育の推進

鳩山町体力向上推進委員会の活動を充実させ、体力向上、健康教育に組織的に取り組みました。心身ともに健康な各学校における健康教育の全体計画を作成し、系統的・計画的に発達段階に応じた健康教育を推進しました。さらに、学校保健委員会等に外部講師を招き「健康教育」についての教職員・保護者対象の講習会を開催したり、歯科衛生士を招いた児童対象の歯科授業を展開したりする等、健康教育の充実を目指した取り組みを行いました。

### ③いじめ・不登校問題等学校教育相談体制の充実

鳩山町教育相談室専門員等会議をとおして、小・中での情報連携を行い、積極的な相談体制を作り、いじめの早期発見、早期対応を図れるようにしました。また、さわやか相談員が計画的に小学校を訪問し、学校での相談活動を充実させました。

いじめの日常の実態把握のために年3回のアンケートや個別の面談を行いました。さらに、県から中学校に派遣されるスクールカウンセラーの計画的な活用を図りました。

### ④安心・安全な食育活動の推進

全学校で「早寝・早起き・朝ごはん」を合い言葉に、朝食欠食児童の減少に取り組みました。また、地域の農産物を給食に取り入れ、食材について理解することにより郷土の文化を知らせました。食への関心を高めるため、給食集会でエプロンシアター等を行い、食への正しい情報を伝えました。

学校給食の放射能測定を行い、児童生徒に安全・安心な給食を提供しまし

た。また、老朽化が著しい学校給食センターの改築事業を進めるため、学校給食の新たなあり方調査検討委員会の提言を踏まえ、学校給食センター改築のための基本設計を策定しました。

## 【評価】

### ①豊かな心を育む教育の推進

地域や家庭の協力を得ながら、各校で創意と工夫を生かした豊かな体験活動を展開することで、児童生徒に体験の中で実践的・経験的に道徳的心情の醸成を図ってきました。学校を中心に地域全体で子どもを育てる体制づくりがなされてきています。

児童生徒一人ひとりの発達段階に合わせた学校教育における人権教育の実践や社会教育分野における人権教育を関係機関や団体などと協力連携し、計画的に諸事業を推進しています。

その結果、学校における人権教育の成果として教職員などの指導により、児童生徒が相互に協力し、他人を思いやる気持ちを身につけ、行動できるようになったことについては評価できます。

また、いじめやそれに類似した行動が皆無とは言えないと思われるため、各学校での人権教育推進組織や教育相談体制の充実・強化に努めるとともに、学校・家庭・地域などが連携して一人ひとりの児童生徒の状況を踏まえ、早期に対応し解決する必要があります。

### ②発達段階に応じた健康教育の推進

鳩山町体力向上推進委員会の活動を充実させ、体力向上、健康教育に町内の学校全体で足並みをそろえて組織的に取り組むことができました。また、各学校における健康教育の全体計画を作成し、系統的・計画的に発達段階に応じた健康教育が進められました。

### ③いじめ・不登校問題等学校教育相談体制の充実

鳩山町教育相談室専門員等会議を3回行い、小・中での情報連携を密に行い、積極的な相談体制を作り、いじめの早期発見、早期対応はもちろん、不登校や問題行動の情報の共有化も図れました。

さわやか相談員が計画的に小学校を訪問することを通し、中学校への接続期に起こりがちな、不登校生徒の増加に対応することができました。

県から中学校に派遣されるスクールカウンセラーの勤務日に合わせて、面談を設定したり、教職員の研修の講師とするなど計画的かつ効果的に活用しました。

#### ④安心・安全な食育活動の推進

学校給食センターでは、全学校で「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、朝食欠食児童の減少に取り組みました。

町の農産物を給食に取り入れ、食材について理解することにより郷土の文化を知らせました。食への関心を高めるため、給食集会や、試食会で講話を行い、食への正しい情報を伝えました。また、子どもの食育を考えるプロジェクト「はとっ子給食レシピコンテスト」の優秀作品を給食に提供し、児童・生徒の食に関する意識の高揚を図りました。

学校給食の食材3品と給食一食分の放射能測定を行い、児童・生徒に安全安心な給食を提供しました。また、測定結果を町のホームページに公表しました。

新学校給食センターの建設を進めるため庁内委員会を組織し、検討を進めてまいりました。基本設計策定に当たっては豊かな創造性、高度な技術力、豊富な経験、実績のある業者選定が望まれることや、設計の大きな要素である厨房機器業者の設計協力を得ながら基本設計を進めることが効果的であるとの結論となり、最も適した厨房業者及び設計業者を選定するため、指名型プロポーザル方式により行いました。

そこで、その審査を厳正かつ公平に行うため、新学校給食センター建設基本設計及び厨房機器プロポーザル審査委員会を設置しました。

審査委員会では、業者から提出された技術提案書やプレゼンテーション及びヒアリングを基に、最も優れた技術提案者と基本設計業務委託契約を締結し、基本設計を策定しました。

### (3) 質の高い教育環境の整備

#### ①学校施設の改修・バリアフリー化の実施

学習環境の整備・充実としては、亀井小学校の校庭遊具の改修工事や今宿小学校の校長室空調機交換設置工事、鳩山小学校のプール量水器設置工事などを行いました。また、国の補正予算を有効的に活用し、亀井小学校の校舎大規模改造工事（平成25年度からの繰越事業）や、鳩山中学校の既設浄化槽とキュービクルの改修工事（地域の元気臨時交付金）を行うことができました。

学校名	主な学校施設改修工事
亀井小学校	校庭遊具改修工事 高架水槽バルブ等交換工事 掲示板設置工事 浄化槽蓋交換工事 校舎大規模改造（老朽）工事（H25→H26）
今宿小学校	校長室空調機交換設置工事
鳩山小学校	プール用量水器設置工事 校舎屋外時計交換工事
鳩山中学校	電気設備改修工事 機械設備（浄化槽）改修工事

## ② ICT機器を活用した教育環境の整備

平成 21 年度に電子黒板等の ICT機器の各学校への整備が図られ、引き続きこれらの機器を活用しました。

## ③新たな給食センターの整備

学校給食センターの改築事業を進めるための基本設計策定にあたり、まず、給食センターの重要な内部設備に係る厨房機器業者を、次に基本設計策定のための設計業者をプロポーザル方式により業者選定を行い、基本設計書を策定しました。

## 【評価】

### ①学校施設の改修・バリアフリー化の実施

学校施設については子供の安全・安心を確保する耐震化、老朽化対策等の整備がほぼ終了したものの、今後も学校側からの要望等を聞き、補助事業で対応できるものについては積極的に活用して整備を行いたいと考えています。

### ② ICT機器を活用した教育環境の整備

引き続きこれらの ICT機器をいかに活用し、教育効果を高めていくかが課題となっています。そのために、今後ともさまざまな教員の研修の機会を増やしていかなければならないと考えています。

### ③新たな給食センターの整備

引き続き学校給食センターの改築事業を進めるため、平成 27 年度は実施設計書を策定するとともに、改築のための財源確保を図るため、学校給食関

係国庫補助事業（学校施設環境改善交付金）に係る事業計画書を提出したいと考えています。

#### （４）家庭・地域社会と連携した教育の推進

##### ①家庭教育支援体制の充実

平成 22 年度、子どもたちを取り巻く社会環境が変化している中で「親や地域で子どものよさを更に伸ばそう 子育ての町鳩山を創ろう」をテーマに、保護者をはじめ町民を対象として、子どもたちの健やかな成長を願い、小・中学校 P T A を中心に町内の諸団体などで組織する「鳩山町親学講座実行委員会」が発足しました。

毎年、実行委員会が主体的に企画・運営し、家庭・学校・地域・職場が相互に連携し、町民一人ひとりが子育てについて関心や意識を高め、地域を挙げて子育てに取り組む町鳩山の実現のため、親学講座を開設しました。

##### 親学講座講演会の実施状況

日 時	会場	講 師	演 題	主 催	参加者
10/25(土) 14:00 ～16:00	鳩 山 町 文 化 会 館	俳優、国連開発 計画親善大使 紺野美沙子氏	「今、私たちにで きること～女優業 のこと、家庭のこ と、そして親善大使 のこと」	鳩山町親学 講座実行委 員会	279名

近年、著しい高齢化社会となり、少子化や都市化、核家族化、I T 化等が進む中で従来のような家庭、学校、地域の機能、役割は変化しつつある状況にあります。

本事業の主たる対象者である幼児や児童生徒をもつ保護者の参加数やその割合は低迷が続いています。運営費用である補助金もなくなり、平成 24 年度からは一般財源を充当してきました。過去の費用対効果を考慮すると同様の形での講演会を継続することは難しい状況です。子どもたちの健全育成のため、各小・中学校 P T A で取り組まれている家庭教育学級の年間事業の中に「親学講座」の学習活動を位置づけることとし、事業の見直しを行いました。

次に、家庭の教育力の向上を図るため、小・中学校や町立幼稚園とその保護者の協力により「親の学習講座」事業にも取り組みました。また、就学時健康診断や中学校入学予定者保護者説明会、中学校の家庭科の授業における生徒と乳幼児とのふれあい体験学習などを実施しました。指導者は「親の学習講座」事業指導者養成講座の修了者や埼玉県家庭教育アドバイザーに依頼

し、事前の打合せ会などにより協議して、執務の割り振りを行いました。

特に、乳幼児と中学校生徒とのふれあい授業は、家庭科での「育児や幼児との接し方」の単元に基づく体験学習で、日頃、乳幼児とふれあう機会の少ない中学生が、赤ちゃんのかわいさや命の大切さ、親への感謝の気持ちを育むことを目的に、平成 19 年度から社会教育委員が中心となって中学校、幼稚園、乳幼児を持つ保護者、埼玉県家庭教育アドバイザーなど多数の方々のご協力により充実した事業を継続して取り組んでいます。

これらの事業の成果としては、町民相互の交流を図り、各種活動への理解やふるさとを見つめる心をかん養することができ、また、親子のコミュニケーションの大切さ、家庭教育の重要性などについて改めて考える機会を提供できたものと捉えております。こうした生涯学習事業の取り組みが町の活性化に寄与できたものと考えています。

#### 親の学習講座事業の実施状況

位置づけ	時期	会場	回数	テーマ	参加者	指導者
就学時健診	10月	各小学校	3回	元気に学校生活を送る	74名	3名
家庭科授業	7～10月	鳩山幼稚園	3回	乳幼児と生徒のふれあい	95名	42名
新入学説明会	1月	鳩山中学校	1回	思春期の心	102名	1名
合計			7回		271名	46名

### ②学校応援団活動の推進

家庭・地域社会との連携を図るために、PTA活動を拡大する形で 21 年度に全校で学校応援団が設置されました。平成 22 年度から年に 2 回の学校応援団コーディネーター会議を教育委員会が主催し、コーディネーターの横の情報連携を図る体制をつくりました。

### ③PTA等の各種諸団体との連携強化

#### 私の家族・役割充実プラン（一人一役運動）

この施策は家庭の中で児童・生徒一人ひとりの所属感・自己有用感を高めるために施策として掲げたものです。このプランを具現化するために、校長会・教頭会での指示を通して学校単位での家庭への啓発を行いました。特に、長期休業中には各学校で発行するしおり等にも家庭の中での役割を持たせるようにとの働きかけが行われました。

## 【評価】

### ①家庭教育支援体制の充実

少子高齢化、情報化、国際化など社会情勢が急激に変化する今日、住民の

ニーズも多様化しています。地方自治体の財政状況も長引く景気低迷の影響を受け、住民サービスの維持に課題があります。こうした状況に対処するためには、行政と住民などが連携協力し、相互に知恵を出し合い、協働で事務事業を進めていくことも必要です。また、過去の成果や課題を踏まえ、常に創意工夫した取り組みや改善が不可欠です。

今後の生涯学習事業については、町民や各種のグループ・サークルが連携し、自ら実行委員会などを組織して主体的に取り組む方法も望ましいと考えています。

親の学習講座事業に関しては、少子化の中で、親子のコミュニケーションの大切さや家庭教育の重要性などについて、町民に改めて考える機会を提供できたものと認識しています。

親学講座は、平成 22 年度から継続し、町内の各種団体や組織の代表者で構成された実行委員会で、講座内容や運営の役割分担などについて協議し、本年度は、実行委員会の主催により講演会を 1 回開催しました。

参加者の多くが、テーマである“私たちにできること（女優、家庭、親善大使のこと）”について、講師の話に感動するとともに「周りの人や社会のために、また、自分のためにできることからやってみようと思いました」、「女優業をしながら、いろんな貧困の国に出向いていることに尊敬、感動しました」等感想がありました。

一方、実行委員会では「今回も幼児、児童生徒を持つ保護者の参加者数が少なかった。30～40 歳代の人に参加して欲しかった」という意見がありました。「地域を挙げて子育てに取り組む町鳩山」実現のため、事業見直しを図りました。

各社会教育関係団体への支援については、関係法令等に基づき育成するとともに、活動状況を把握し、適時助言をしていくことも必要です。財政支援については、引き続き関係団体の活動実績を踏まえ、判断していく必要があります。

また、各社会教育施設や当該設備については、町民が安全に安心して利用できるよう、日頃の適正な管理が大切であることは当然ですが、限られた財政(予算)の下では、課内で連絡調整し、修繕すべきところは優先順位を設けるなど計画的に進める必要があります。

## ②学校応援団活動の推進

学校応援団として町内の全校設置 4 年目となり、コーディネーターの方々の連携が進み、自主的な情報交換等も行われてきました。コーディネーターの方々も P T A 関係（経験者も含めて）からの選出が多く、小学校 3 校の児童が中学校 1 校へ進学する鳩山町ならではの連携が図れてきていると感じ

ます。特に中学校でのコーディネーター3名（各小学校区より選出）という体制が有効に機能しています。課題としては、仕事を持たれている方々が多くの県の研修等に参加できない場合が多いことです。

### ③PTA等の各種諸団体との連携強化

家庭の中での活動であるために、その実施についての客観的な評価を行うことが難しく、実際にどれくらいの児童・生徒が一人一役を実施したのかは定かではありません。また、家庭によっては、当然のことであるということとで普段から取り組んでおりました。教育委員会として、重点施策の一つとしての位置づけを検討していきます。

## (5) 生涯学習と生涯スポーツの振興

### ①多様な生涯学習の機会の提供と支援

あらゆる世代の町民の方に、学習の機会を提供すべく、各種講座を実施しました。

#### ア 世代別等講座

参加者の世代等を分けて開催することにより、情報を共有しやすくするようにしました。

No.	講座名	回数	募集人数	申込者数	参加延人数	内容
1	わんぱく学級	6回	30名	34名	113名	ミニ七夕飾りを作ろう 社会科見学 吹き上げロケットを作ろう ペットボトルロケットGO! フラワーアレンジメント もちつきをしよう
2	寿大学	5回	定員なし	317名	706名	研修会、町外研修 町民の集い、ステージ発表 地域安全・暴力排除推進大会
3	女性学級	5回	定員なし	39名	121名	視察研修、研修会、 健康体操、フラワーア レンジメント、折り紙教室
計				390名	940名	

#### イ 趣味・教養講座

同じ趣味を持ち、同じ目的を持つ者どうしの学習の場を持つことにより、お互いに高め合いながら、学習することができるようにしました。



No.	講座名	回数	募集人数	申込者数	参加延人数	内容
1	しめ飾り教室	1回	10名	10名	10名	しめ飾りの作成
2	立体切り絵教室	5回	10名	3名	12名	季節を題材とした一回一作品の作成
3	パソコン相談会	10回	定員なし	随時来館	128名	パソコン操作の疑問に対応
4	ウォーキングのいろは	3回	20名	15名	41名	「ウォーキング」を基礎から学ぶ
5	パソコン健康診断	1回	20名	16名	16名	パソコンに必要なアップデートの仕方
6	パソコンアップデート教室	1回	20名	14名	14名	パソコンに必要なアップデートの仕方
7	超初心者パソコン教室①	10回	9名	20名	83名	超初心者がインターネット使用まで学ぶ
8	超初心者パソコン教室②	8回	9名	11名	62名	超初心者がインターネット使用まで学ぶ
9	超初心者パソコン教室③	8回	9名	9名	68名	超初心者がインターネット使用まで学ぶ
計				98名	434名	

人権を尊重する教育の推進では、さまざまな人権問題を解決するため人権教育を系統的、計画的に推進し、人権教育・人権啓発事業に取り組みました。

主な人権教育推進事業では、小学生を対象とした「のびのび鳩山」（1～3年生）を6回、実施しました。第1、6回学習会は、中央公民館主催の「わんぱく学級」（対象3～6年生）と合同で開催し、学習の環が広がりました。

「のびのび鳩山」では、児童が相互に協力し、町内の散策やものづくりを通して、豊かな心や思いやりの心を醸成するための体験学習の場を提供しました。

「仲良しの友達が少なかったけど、他学年と話したり、学習内容に興味があったことで、進んで参加する意欲が見られた」、「親子でするのは違う、貴重な機会となった」、「毎回、楽しかった」などの感想がありました。

## a のびのび鳩山

(単位：名)

回	日 時	会場	内 容	参加者数
1	6/28 (土) 9:00~11:30	中央公民館	ミニ七夕飾りを作ろう	28(48)
2	7/12 (土) 9:00~11:30	中央公民館	かみひこうきとぼし大会をしよう	27
3	9/20 (土) 9:00~11:30	亀井分館	秋の自然を楽しみながら竹本を歩こう	14
4	10/18 (土) 9:00~11:30	農村公園	どんぐり人形を作ろう	23
5	11/15 (土) 9:00~11:30	物見山駐車場	平和資料館からスカイツリーを探そう	17
6	1/17 (土) 9:00~11:30	農村公園	もちつきをしよう	26(43)

※ 参加者数の欄で、( )内の数値は「わんぱく学級」の参加者数を含む

また、子どもの学ぶ力や生きる力を育み、地域の教育力を向上させるとともに、鳩山町と東京電機大学が連携し、大学の特色を生かした学習活動を提供するため、埼玉県教育委員会の支援をいただき、平成25年度新規に「子ども大学はとやま」を開設しました。町内在住の小学校4～6年生を対象に、前年度まで人権教育推進事業に位置づけて実施していた「子どもおもしろ科学館」をグレードアップして科学の実験や観察、施設見学を通して科学的なものの見方や考え方から優しさや思いやりの気持ちを醸成し、差別をしない人間形成に資する目的で、年間6回講義を実施しました。

参加者は毎回他校や異学年の仲間たちと協力して一生懸命学び合いました。参加者からは「心臓の働きや動きについて、良く分かりました。血液や、他の臓器についても興味がわきました」、「鳩山町には、どういう鳥がいるのかが分かってよかった。鳥の鳴き声、特徴が良く分かりました」、「いろいろな花や葉を取って、それを標本にしてきれいな標本が出来て良かった」などの感想がありました。保護者からは、「毎回、参加した後に学んだことを興味深そうに話してくれました。貴重な体験ができてよかった」、「家庭では、なかなか体験できないことを学ぶことができ、子供も毎回たのしみにしていました」などの感想がありました。

今後も参加者や保護者の意見や要望を踏まえ、埼玉県教育委員会の支援をいただきながら、町と東京電機大学等で協議して子どもたちに学習の機会を提供していきたいと考えています。

## b 子ども大学はとやま

(単位：名)

回	日 時	会 場	内 容	参加者数
1	5/31(土)9:00~11:30	東京電機大学	入学式 心臓のはたらきって何だろう	27
2	7/19(土)9:00~11:30	中央公民館	植物の標本を作ろう	22
3	8/ 5(木)9:00~15:30	さいたま水族館 さきたま史跡の博物館	水族館へ行こう	23
4	9/13(土)9:00~11:30	東京電機大学	ペットボトルで手を作ろう	25
5	11/29(土)9:00~11:30	東京電機大学	いろいろな形のシャボン玉 をつくろう	20
6	12/13(土)8:30~12:30	石坂の森 東京電機大学	バードウォッチング入門 修了証書授与式	25

男女共同参画社会の実現を目指し、「<sup>ひと</sup>女と<sup>ひと</sup>男の生き方学級」を開催しました。受講生の中から運営委員を募り、運営委員会で協議を重ね事業計画や年間テーマを定め、学級では運営委員が受付・司会・記録など役割分担しました。

運営委員会での協議の結果、年間テーマを「郷土を知ろう」～比企地方の歴史と自然～ と定め、受講生は全5回の講座を熱心に学び、交流を深めました。

学習活動を通して、さまざまな人権問題を正しく理解し、一人ひとりが基本的人権を尊重してそれぞれの人権意識を高め、偏見や差別を解消するため、学習活動に取り組みました。

## c 女と男の生き方学級

(単位：名)

回	日時	時間	内 容	会 場	参加者数
1	5/22 (木)	9:30~12:00	「昔の行事や方言など」についての グループディスカッション	石坂分館	17
2	7/16 (水)	9:30~12:00	埼玉の自由民権運動・・・秩父事件	石坂集会所	18
3	9/26 (金)	9:30~15:00	さきたま古墳と忍城の見学	さきたま史跡の 博物館、忍城周辺	27
4	11/11 (火)	9:30~13:30	慈光寺散歩	慈光寺・萩日 吉神社	22
5	2/24 (火)	9:30~12:00	生活と植物	石坂分館	18

研修会等では、教職員を対象とした「人権問題研修会」を、また、町民を対象とした「人権問題を考える町民の集い」をそれぞれ1回開催しました。「人権問題研修会」では、児童生徒の発達段階に応じた人権教育を推進するため、「児童虐待の現状と課題」と題した講演を教職員は熱心に学習し、充実した研修会になりました。

また、「人権問題を考える町民の集い」では、人権が尊重された社会づくりに向けて町民意識の高揚を図るため、鳩山中学校吹奏楽部の演奏によるオープニング、小・中学生の代表による人権作文の朗読発表、最後に「障害のある子どもの人権問題を支えるための取り組みについて」と題して講演がありました。

成果としては、人権教育推進事業や研修会等の開催により、さまざまな人権課題について町民一人ひとりがその現状を正しく理解する学習機会に参加され、自分自身の問題として自他を大切にすることを醸成することができたのではないかと考えています。

今後もさまざまな人権課題の解決に向け、一人ひとりの人権意識の高揚を図るため人権教育・人権啓発に努めていきたいと考えています。

d 人権問題研修会等実施状況

(単位：名)

日時	時間	内 容	会 場	参加者数
8/19 (火)	9:30~11:30	鳩山町人権問題研修会 講演：演題「障害のある子どもの人権問題と支えるための取組について」 講師：埼玉県立毛呂山特別支援学校 特別支援コーディネーター 鎌田 純也 氏	鳩山町役場	81
12/7 (土)	9:15~12:00	鳩山町人権問題を考える町民の集い オープニング 鳩山中学校吹奏楽部の演奏 人権作文発表 (小・中学生代表4名) 講演：演題 「児童虐待から子どもたちを守る」 講師：小島 幸保 氏 (弁護士)	鳩山町文化会館	345

ウ 地域コミュニティー事業

学習の場を屋外に移し、日頃出会うことも少ないものがつどい、お互い励まし合いながら、自然を満喫し、つながりを構築する。もって、事後の学習仲間を得る機会を提供しました。

No.	講座名	回数	募集人数	申込者数	参加人数	内 容
1	春のハイキング	1回	28名	43名	28名	都民の森 (東京都桧原村)
2	夏のハイキング	1回	32名	32名	32名	池の平湿原 (長野県東御市)
計				75名	60名	

また、関係機関との連携により、下記の事業も行いました。

- (a) 第32回鳩山駅伝大会 (鳩山町内) 11月30日 教育委員会と共催
- (b) 第41回正月マラソン大会 (農村公園周辺) 1月3日 教育委員会と共催

エ 教育機関との連携事業

町内関係教育機関等と連携して、日頃の教育成果を、広く町民の方に知っていただけるように、発表の場を開催しました。

・はとやま幼児ふれあい絵画展（会場：文化会館ホワイエ）

開催日時	内 容	出 品 者	来場者数	前年度比
6月21日 6月22日 10:00～	年長園児絵画作品の展示	鳩山幼稚園 ひばり保育園 石坂幼稚園	645名	25名

・ふれあい演奏会 2015（会場：文化会館ホール）

開催日時	内 容	出 演 者	来場者数	前年度比
2月21日 13:30～	各校単独演奏及び 合同演奏の二部構成	鳩山中学校吹奏楽部 滑川町立滑川中学校吹奏楽部	224名	△60名

## ②文化芸術活動の振興

地域の機関・文化芸術団体と連携を図り、発表の場や参加の機会の拡充を図りました。

ア はとやま大人バンドステージ Vol.5（会場：文化会館ホール）

地域に密着した活動をしている、大人世代を中心としたアマチュアバンドが、「鳩山町をもっと元気に！」を合言葉に、みんなを元気づけました。

開催日時	内 容	出 演 者	来場者数	前年度比
12月21日 13:00～	鳩山在住、在勤の大人世代が 中心のアマチュアバンドに よるステージ	スイングストリングス ステージア、はとやまバンド ウッズ・アンド・ウォーター Hatoyama Heartbeat Band with モンブランズ、Harlequin Heart on、ウィンカンパニー	253名	27名

イ 第19回だれでもチャレンジステージ（会場：文化会館ホール）

開催日時	内 容	出演者数	前年度比	来場者数	前年度比
6月22日 10:00～	吹奏楽、合唱、独唱、 ハーモニカ演奏、お囃子、 舞踊、ダンス、演舞 等	団体 21 個人 6	団体 2 個人 0	533名	△44名

※主催：だれでもチャレンジステージ実行委員会 協力：教育委員会、中央公民館

ウ 第 39 回中央文化祭（会場：中央公民館ホール・ロビー、文化会館ホワイエ）  
 公民館利用者団体を中心に、町内地域住民の年間活動を一堂に展示した  
 芸術文化の祭典を開催し、文化活動の向上と推進を図りました。

開催日	内 容	出品者・数	前年度比	来場者数	前年度比
11月1日 ～3日	絵画・生花・書道・編物・ 七宝焼・写真・俳句・ お茶席・盆栽など	団体 34 個人 1 1,070点	団体 3 個人 0 94点	550名	100名

※中央文化祭実行委員会と共催

エ 第 19 回鳩山陶芸展（会場：文化会館ホワイエ）

陶芸活動を通して構築した創作群を一堂に展示することにより、地域文  
 化の向上と推進を図りました。

開催日	参 加 団 体 名	出 品 数	来場者数	前年度比
11月1日 ～3日	ひよう会・山吹会・なずな窯の会・ きんもくせい窯の会・釉遊会・ 陶芸倶楽部マスクー・個人出品	99点	350名	0名

※鳩山陶芸展実行委員会と共催

### ③スポーツの振興

「子どもから高齢者まで」といった生涯スポーツの原点に基づき、スポー  
 ツ少年団や体育協会並びにスポーツ推進委員・スポーツ振興委員協議会との  
 連携を図り、各種のスポーツ大会等を開催しスポーツ活動の振興を図りまし  
 た。

また、各競技部の主管による各種大会や講習会等も開催しています。

※主な大会と参加者数

大会名	参加者数
第30回グラウンドゴルフ大会（個人戦）	220名
第7回小学生グラウンドゴルフ大会	59名
第31回グラウンドゴルフ大会（団体戦）	32チーム（235名）
第57回鳩山町民体育祭	雨天中止
第32回鳩山駅伝大会	51チーム
第41回正月マラソン大会	313名
亀井サッカースポーツ少年団創立40周年記念親善大会	16チーム
第32回鳩山町スポーツ少年団野球大会	16チーム
第8回近隣交流ミニバスケットボール大会	6チーム

体育協会及びスポーツ少年団加盟団体に対し、育成費を助成しました。また、各競技部の自主的活動に対し、本部としての活動支援も行いました。

種別	育成費支給団体数	育成費支給額
体育協会	15	711,150円
スポーツ少年団	5	610,700円

各競技部における技術指導だけではなく、「もしもの時の救命知識と対処方法」を学ぶため、第8回普通救命講習会を開催しました。スポーツの技術指導だけでなく、幅広い知識と対応できる力が必要だと考え企画しました。

種別	参加人数
体育協会	10名
スポーツ少年団	8名

スポーツ少年団指導者認定員講習会及び指導者研修会に参加し、新たな指導者の人材確保と更なる技術指導等の習得を図りました。

#### ④地域の人材・専門家などの積極的な活用

地域の逸材的な人材や専門家の発掘に努め、新たな体力作りに活用するために施策として掲げたものです。このプランを具現化するために情報を集めました。情報不足などにより実際の活用に結びつけませんでした。

#### ⑤文化施設・スポーツ施設等の整備・維持管理

スポーツ担当では、スポーツ施設等8箇所を管理しています。利用者



が常に快適に使用できるよう努めています。近年、施設の老朽化が著しく頻繁に補修並びに修繕を行っています。また、利用者から施設の改善等の要望により施設の整備を行っています。

## ⑥図書館サービス事業の推進

図書館では、利用者の多様な学習及び調査研究活動を支援することを目的として、インターネット端末が利用できる環境を整備しています。また、利用者の拡大を図るため、乳幼児を対象とした「すこやかブック事業」や未就学児を対象に絵本を使ったお話と手遊びを実施する「うさぎちゃんのへや」、小学生までの児童を対象として本を使ったお話と紙工作をする「こどもおはなし会」を実施すると共に、保育園・幼稚園児及び小・中学生を対象に図書館の書籍や行事をお知らせする「図書館だより」を発行して利用者の拡大を目指しました。また、障がい者サービスの向上を図るため対面朗読ボランティア養成講座を開催いたしました。

## 【評価】

### ①多様な生涯学習の機会の提供と支援

生涯学習の機会として、幅広い年代層の方々に、分野別、時には年代別にプログラムを提供して、多くの参加者を得ることができました。

特に、今年度は超初心者パソコン教室に重点的に取り組みました結果、町民の方の関心も高く、受講生にも高評価を得ることが出来ました。

今後とも、住民ニーズの把握に努め、多様化する嗜好に適合する講座等の開催を進めるとともに、学習意欲に富んだ方々の学習支援ができるよう努めていきます。

現在、私たちの身の回りには女性・子ども・高齢者・障がいのある人・外国人・同和問題などさまざまな人権問題があります。こうした問題を解決していくためには、一人ひとりが個別の問題を正しく理解し、お互いに相手を思いやり、偏見や差別を解消しようとする心を養うとともに、行動していくことが大切です。

社会教育分野における人権教育の取り組みについては、人権教育推進事業(「のびのび鳩山」、「子ども大学はとやま」、「女と男の生き方学級」)を通して参加者の人権意識が徐々に高まってきていると思われ、評価できますが、参加者は町民の一部であるため、今後もより多くの人々に学習への参加を呼びかけ、さまざまな人権課題の解決に努めていく必要があります。

また、研修会への参加についても団体や組織などに所属する一部の町民に限られるため、今後も広報活動に努め、人権教育・人権啓発の効果的な方策について見直し、粘り強く継続して取り組んでいくことが大切であると思わ

れます。

石坂集会所については、人権教育・人権啓発を推進するための拠点施設であると同時に、日頃から地域住民の集会施設として、また、町民の文化活動や相互交流のための施設として住民に利用されており、一定の評価はできると思われまます。ただし、通常は無人の施設であるため、今後も施設設備の定期的な点検を励行し、町民が快適に利用できるよう、教育委員会で適正に管理運営していきたいと考えています。

## ②文化芸術活動の振興

地域で活躍・活動をしている団体等の日頃の成果を発表する場として、中央文化祭、鳩山陶芸展、だれでもチャレンジステージ、はとやま大人バンドステージを開催していますが、各参加者には、日頃の練習、創作活動の成果を披露できるということで、大変好評を博しているとともに、自分たちで盛り上げていこうとする、機運も見え始めました。

一方、課題として、特に、高年者を中心として創作活動にとっても意欲的な方が増えていますが、施設利用料の負担が次のステップへの足かせになっています。社会活動から自己実現へと移行していく中で、地域資源の需要が高まってくるので、今後は、創作意欲に富んだ方々の活動支援ができるよう協力していきます。

## ③スポーツの振興

「子どもから高齢者まで」といった生涯スポーツの原点に基づき、スポーツ少年団や体育協会並びにスポーツ推進委員・スポーツ振興委員協議会との連携を図り、各種のスポーツ大会等を開催しスポーツ活動の振興を図りました。

また、各競技部の主管による各種大会や講習会等も開催しています。

## ④地域の人材・専門家などの積極的な活用

地域の逸材や専門家の発掘のための情報収集不足により、新たな体力作りに活用することができませんでした。

今後は目標に沿い人材の掘り起こしに努め、地域の人材・専門家などの積極的な活用に結びつけたいと考えています。

## ⑤文化施設・スポーツ施設等の整備・維持管理

限られた予算の範囲内において、利用者からの要望などに沿うよう努力し維持・補修等に努めていますが、要望に追いつかないのが現状です。

しかし、厳しい予算内で優先順位をつけ、施設の維持管理に努めていき

いと考えています。

## ⑥図書館サービス事業の推進

図書館では、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、町民を主とする一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することが求められていることから、利用者の多様な学習及び調査研究活動を支援することを目的として、書籍や視聴覚資料の所蔵に加えインターネットが利用できる環境が整備してあります。今後も少子高齢化への対応や障がい者サービスの向上なども含め、多様化する住民ニーズに対応できるように一層のサービス向上と読書環境の改善に努めていきます。

## (6) 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進

### ①南比企窯跡群の国指定文化財への指定推進

南比企窯跡群の国指定史跡化に向け、次のような事業を実施しました。

#### ア 国分寺市との連携事業

- ・「市外文化財めぐりー武蔵国分寺の瓦生産地をめぐり、古代瓦を作る」  
期日：8月3日 場所：農村公園内「まつぼっくり」  
町教育委員会、東京都国分寺市教育委員会共催事業。国分寺市民45名と市職員6名が町ボランティアの方々の指導の下、古代瓦作りをとおしての地域交流を図りました。
- ・「古代瓦作り体験」  
期日：7月27日 場所：農村公園内「まつぼっくり」  
町民を対象にした町教育委員会主催事業。町ボランティアの指導の下、参加した26名の方々が、古代の技法による瓦の製作を体験しました。
- ・「復元窯焼成実験」  
期間：10月15日～25日 場所：まつぼっくり隣復元窯  
町民・国分寺市民・瓦製作プロジェクトメンバー製作の瓦、及び瓦塔を、18日午前9時から翌19日午前11時まで窯の火を止めることなく、最高1,100℃の中で焼成しました。なお、窯詰め時に25名、あぶり時に92名、焼成時に54名、窯出し時に17名、計188名の方が見学に来られました。
- ・「町外文化財めぐり～武蔵国分寺跡～」  
期日：12月13日 場所：東京都国分寺市  
町民を対象にした町教育委員会主催事業。町民の方20名、町外の方6

名の計 26 名と町職員 4 名が庁用バスで国分寺市を訪問し、国分寺市教育委員会職員の案内の下、国史跡武蔵国分寺僧寺跡・尼寺跡、東山道武蔵路跡、伝鎌倉街道、武蔵国分寺跡資料館、文化財資料展示室等を見学しました。また、国分寺市民とともに、復元整備中であった僧寺講堂基壇跡の西側に、平成 25 年度・26 年度に作成した古代瓦を積む体験を実施しました。

・「甦る古代の瓦・瓦塔～復元窯焼成実験活動記録展～」

会期：1 月 15 日～2 月 8 日 場所：多世代活動交流センター 2 階美術展示室

町教育委員会主催事業。平成 24 年度から 26 年度までに実施した、ミニ瓦や古代瓦の製作体験や焼成実験、これまでの復元窯を利用した事業に御協力いただいたボランティアの方々の活動、瓦塔製作過程等をまとめた記録展を実施しました。国分寺市の御協力もいただき、平成 25 年度国分寺まつりで提供した市長瓦、町長瓦、市・町教育長連名の瓦を借用して展示しました。25 日間の会期中、計 223 人の方が見学に訪れました。

イ 調査委託業務

指定候補地調査報告書作成に向け、「石田遺跡磁気探査業務」、「石田遺跡 Q 区瓦溜まり図面作成業務」、「新沼窯跡出土遺物整理業務」を実施いたしました。これらの成果を、平成 28 年 3 月刊行予定の「新沼窯跡調査報告書（仮称）」、平成 28 年度刊行予定の「石田遺跡調査報告書（仮称）」に反映させていきたいと考えております。

また、下水管敷設に伴う天神台遺跡第 7 次発掘調査で出土した遺物の整理作業として、「天神台遺跡第 7 次出土遺物実測等業務」を実施し、成果をまとめた報告書を 3 月に刊行いたしました。

**②各種文化財の調査研究**

各種文化財の調査研究として、次のような事業を実施しました。

ア 町内遺跡の確認調査

各種開発に先立ち、確認調査（試掘調査）を随時実施し、遺跡の内容と範囲の把握を行いました。今年度は確認調査を 8 か所、発掘調査を 1 か所実施しました。

イ 出土品の再整理・再収納

昨年度に引き続き、過去の出土品のうち整理不十分な資料の再整理と再収納を行いました。

#### ウ 文書目録の作成

地域史料関係として近世～近代の諸家文書の目録の作成も、昨年度に引き続き行いました。

#### エ 埋蔵文化財調査報告書の刊行

平成 25 年度に国庫補助事業として実施した発掘調査及び確認調査結果をまとめた、鳩山町埋蔵文化財調査報告第 42 集『町内遺跡 13』を 12 月に、平成 26 年 7 月に町単独事業として実施した天神台遺跡第 7 次調査をまとめた、鳩山町埋蔵文化財調査報告書第 43 集『天神台遺跡第 7 次』を 3 月に刊行いたしました。

### ③無形文化財の保存・継承

無形文化財の保存・継承として、町指定無形民俗文化財の保存団体に補助金を交付しました。

ア 今宿八坂神社祭囃子保存会

イ 泉井獅子舞保存会

ウ 熊井囃子保存会

### ④多世代活動交流センター展示室の活用

展示室の活用として、次のような展示活動を行いました。

ア 美術展示室の活用として、「町所蔵美術品展～版画で旅する古都～」を昨年度に引き続き開催し、町所蔵の美術品展の公開を行いました。また、1 月 15 日～2 月 8 日には「甦る古代の瓦・瓦塔～復元窯焼成実験活動記録展～」を開催しました。

イ 出土品展示室の活用として、南比企窯跡群の国指定史跡化へ向けた一助とすべく、文化財展 「鳩山窯跡群～25 年を過ぎて振り返る大発掘～」を今年度も引き続き開催しました。

## 【評価】

### ①南比企窯跡群の国指定文化財への指定推進

南比企窯跡群の国指定史跡化に向け、平成 26 年 4 月文化財専門職員 1 名が新たに配置されるとともに、同年 10 月にも 1 名追加配置されました。

専門職員が増員されたことにより、今後も計画的に業務を推進していきたいと考えています。

### ②各種文化財の調査研究

各種文化財の調査研究は、出土品再整理業務や文書目録作成作業は概ね予

定通り遂行できたものと考えられますが、各種開発にともなう確認調査については、突発的な事案が大半であるうえに近年の景気回復基調により照会件数が増え、限られた職員の下で厳しい状況が続いています。特に近年は、山林での太陽光発電パネル新設による大規模開発が増加傾向にあり、それに伴う確認調査が発生しています。開発面積が広く、調査に長時間を要することもあり、文化財調査補助員の増員確保が急務です。労働環境を改善しない限り、課題の解決は難しいものと思われま

### ③無形文化財の保存・継承

無形文化財の保存・活用は、例年通り補助金交付という財政的な支援を行いましたが、担当業務の量を考慮すると止むを得ないものと考えられます。

### ④多世代活動交流センター展示室の活用

多世代活動交流センター展示室の活用は、美術・出土品展示会ともに好評のうちに開催できたものと考えています。特に、「復元窯焼成実験活動記録展」は会期が25日と短期間にもかかわらず、200名を越える見学者があったことは、多くの方々に文化財保護事業へ興味や関心を持っていただけたものと考えられます。

## 7 おわりに

教育委員会では、今までも教育行政の重点施策について、点検・評価を行い進めてまいりましたが、平成19年度から始まった学識経験者の知見を活用することにより、さらに目標に向けて努力することが必要であるとのご意見もいただきました。

教育委員会では、今後とも外部評価委員のご意見・ご提言を真摯に受け止め、さらに研さんを積み、より効果的な教育行政の推進に努力してまいります。

## 学識経験者からの意見並びに提言

### 1 点検評価報告書に係る意見

#### (1) 学力向上・指導方法の改善など「わかる授業」の研究について

鳩山町学力向上推進委員会では、町独自で「基礎・基本の充実をはかるドリル学習ソフト」を作成し、小学校全学年で活用していることから、基礎的学力が身につく、中学校における学力向上の一助になっていることを評価します。

#### (2) 家庭教育支援体制の充実について

「親学講座」については、幼児や児童生徒をもつ保護者の参加数やその割合は低迷が続いていることから、「費用対効果」を考慮し、今までと同様な形での講演会ではなく、若い子育て世代の方が参加できるよう、各学校のPTA組織と連携を図る等の事業見直しが必要であると考えます。

#### (3) 豊かな心を育む教育の推進について

「いじめ」については、道徳で「心の痛み」、「相手の気持ちを分かりなさい」等、子どもたちに訴えていても解決しないのが現状で、「いじめ」がゼロになるのは難しいことです。

言葉だけでは無理があるので、悲しい物語を読んで思わず「涙が出てしまった」などの疑似体験が必要です。

そのため、読書教育が非常に重要であり、学校図書館と町の図書館とのネットワーク構築を実現する必要があります。